

## 一日

こんな小さな花のような  
素直な微笑を持ち続けたい

こんなのどかな風景のような  
限りない優しさを持ち続けたい

こんなやはらかな清風のような  
さり気ない傍らの存在でありたい

こんなぼんやりとした<sup>ひかり</sup>陽光のような  
温かな肌触りを与える人でありたい

そんな風な希いをもってこの昼日中  
僕は地図を片手に野を歩き回る  
何もかもがかすかに感じられてくる昼日中

\*

地下鉄のシートに疲れ切って座る人の  
心の奥に潜む希いを何気なくすくい上げたい

テーブルにうらはらの言葉を吐き棄てる人の  
蟠りに相槌を打ってそっと寄り添っていたい

苦汁の諦めを陶酔と談笑に紛らす人の  
かすかなゆらめきをじっと感じていたい

こんな華やかにきらめく灯りに照らされ  
様々な生々しい人々と混じり合っていたい

そんな風な希いをもってこの都会の夜  
僕は感性を片手にビルの谷間  
何もかもが深く心に忍び込んでくるこの都会の夜

\*

激しい転調をくぐり抜けた後の夜更け  
本とノートと音楽とに囲まれてこの部屋の中  
僕は呟く 「ひと、かぜ、まち」と・・・

(1984.5.2)